

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
学習指導	①すべての教科、総合的な学習の時間において思考力や探究力を高める授業に取り組む。	教員の取組指標については74.2%の成果であり、目標である80%を下回った。今年度は判断基準に「対話を通じて思考力や探究力を育成する」としたことや、基準をより具体的・厳密にしたことが原因と考えられる。一方で生徒は、93.6%が対話を通じて考えたり探究したりする活動に「十分」「ある程度」取り組んだと答えており、教員が継続的な取組を行ってきたことが伺える。1・2年生の数値が3年生に比較してやや低いが、基礎基本の定着に向けた学習が主であったため、演習形式の授業が多く、対話的な学習の割合が少なかったと考えられる。	対話的を通じて探究する、思考するという授業のあり方は継続して研究していく。学校内の授業研究や先進校の視察、研究発表会等への参加に取り組んで、本校の生徒にあった授業のあり方、内容、目標を学校全体で考え、実践していく体制をつくる。特に生徒が主体的に学習に向かうしかけのある授業を追求し、学校全体が学びに向かう組織となることを目指したい。
	②予習や復習、自主的な学習を通して、自分で疑問点を見つけたり、それを授業等を通して解決したりする活動を促す。	教員の取組指標は目標を上回ったが、昨年度と比較すると「十分できた」と答える教員が40%も低下した。①同様に、自分の取組みをより厳格に評価したものと思われるが、生徒側の回答も下れしており、全体として家庭学習への取組みは十分ではなかったことが伺える。家庭学習に限らず、「質問する」こと自体が低調であったと思われる、主体的に学ぶ姿勢を学校全体として育成することが十分でなかった。保護者の評価は、全体的な傾向は変わらないが、「あまり満足していない」と評価する回答が若干増加している。	家庭での学習を促し、その結果をもって学校の授業においてさらに学びを深めるというサイクルを確立するよう、②の目標を設定した。宿題等の提出率は決して悪くなく、学習時間も例年と比較して短いわけではない。家庭での学習を促し、学校での授業につなげるような、授業のあり方や課題の内容を研究する必要がある。①同様、学校においてどのような学びを提供していくかが問われているので、新しい教育課程の研究を通じて、勝山高校の学習活動を確立していきたい。
生徒指導	①きちんとした身なりをさせるために、全教職員の共通理解を図り、継続的な指導に取り組む。	生徒の成果指標は1.2増の98.5%、保護者の満足度指数は0.5減の97.8%で、目標指数の85%を大きく上回り、十分満足がいく結果となった。一方、教職員の取組指数は、昨年度の100%から67.7%に大幅に減少した。これは、容儀指導や頭髪指導を受ける生徒数が激減しているため、注意指導を行わず、すぐに授業を始められるようになったことが要因のひとつであると考えられる。	容儀については、全教職員の共通理解のもと、今後とも保護者と連携して継続的に指導する。違反行為を咎めるのではなく、容儀を整えることの意義や必要性にも触れ、基準をはっきり伝える。保護者に対して、合格者登校日やPTA総会、保護者懇談会向けの配付物を通じて、理解と協力をお願いする。
	②挨拶の習慣を身につけさせるために、積極的に声かけを行う。	教職員の取組指標は96.8%で昨年とほぼ同等で目標指数を上回った。一方、生徒の成果指標は、5.9%減の90.3%、保護者の満足度指標は、2.2%減の81.3%となり、昨年度をやや下回ったが目標指数はなんとか達成出来た。生徒保護者とも指数が下回ったことにより、校外での挨拶が出来ていない生徒がやや増加している。	挨拶は良好な人間関係を築く第一歩であることを周知させ、自ら進んで、学校だけでなく家庭を含め、地域でも挨拶ができるよう集会等で指導し、全教職員での声かけを促す。生徒会・生活委員会を中心に朝の挨拶運動を行う。また、部活動でも挨拶指導を継続して行っていきたい。①の項目同様、保護者の理解と協力をいただき、家庭内や地域社会においても挨拶が出来るようにしたい。
進路指導	①自らの進路について考える機会の充実と進路情報の効果的な活用を図り、主体的かつ適切な進路選択を支援する。	教職員や担任の取組指標「進路情報の積極的な提供」と「生徒との意思疎通」は目標を達成できた。生徒の成果指標「面談やガイダンスを通して得た情報により、進路目標を明確に持つ」は3年生93.9%、2年生68.0%、1年生65.7%で、3年生しか目標を達成できなかった。特に2年生は目標を12ポイント下回っており、1年次と比べて13ポイント下がった。保護者の満足度指標「進路に関する情報の提供」は86.1%で、目標を上回った。	1・2年次に進路目標を明確に持たせられなくなっているため、1・2年次の進路ガイダンスや小論文指導、1年次の職業調べ・企業等見学会・職業講話、2年次の学部学科調べ・模擬講義と就職講話・就職と公務員ガイダンスについて、実施時期や内容について、学年会とも連携して見直しを図りたい。
	②模擬試験等を有効活用し、学力向上に努める。	5教科担当者の「模試の事前・事後指導」への取組指標は目標を達成できた。生徒の「模試への過去問演習や復習の取組」への成果指標は65.1%で、目標を4.9ポイント下回った。保護者の「模試結果を見ての子供との話し合い」への満足度指標は77.2%で目標を上回った。	生徒の模試への取組に対して、学年会とも連携して意識の向上を図りたい。保護者と生徒は「個票綴り」を介して進路について話し合い、意思疎通の機会となっているので、今後も継続していきたい。なお、「個票綴り」をより使いやすいものに改良したい。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
保健管理	①生徒とともに清掃活動に取り組み、学習環境の美化に努める。	すべての観点で判定結果が90%以上であり、目標指数を上回ることができた。しかし、生徒の資源ゴミ分別については「あまり取り組んでいない」または「取り組んでいない」という回答が前年より5%程度増加している。	日々の清掃活動については清掃強化週間も含め、今年度の活動を継続する。ゴミ分別については保健委員会から生徒全体に呼びかけるなど、年間を通じて生徒の意識向上につながるような方策を実施する。
	②不登校やいじめの早期発見・対応と特別支援が必要な生徒への支援の充実に努める。	すべての観点で判定結果が90%以上であり、目標指数を上回ることができた。しかし、「学校生活を心身ともに健康的に送っている。おおむね健康的に送っている。」と回答した生徒は5%程度減少している。	相談室・保健室を利用する生徒との関わり、クラス担任・学年会との連携を通して、学校生活への適応に困難さを感じている生徒の早期発見、対応に努める。次年度も「相談の時間」を継続する。相談体制の充実（人員増加など）の具体的方策について検討し要請していきたい。
図書指導	①図書利用における環境整備に努め、図書館や学級文庫を利用しやすくする。	図書館オリエンテーション、広報誌での図書紹介、アンケートの実施、館内の展示やレイアウトの工夫などによる雰囲気づくりを通して、図書館の利用促進に努めた。 朝読書については取組指標は昨年を上回り、成果指標とも目標指数を達成した。 図書館や学級文庫については成果指標が昨年より下回った。上記の活動を継続していく。 子どもが本や新聞に親しむ環境があることに対する保護者の満足度指数は昨年より下回り目標指数は達成していない。家庭での読書習慣の確立が課題である。	朝読書については、その意義や効用を引き続き生徒・教職員に周知させるとともに、学級文庫の充実なども図り今後も生徒・教職員が朝読書の時間を共有していく意識を高めていく。 図書館便りにクラス別貸出冊数や貸出冊数者上位ベストテンを記載したり、学期毎の職員会議でそのまとめを報告したりして、教職員の読書活動への理解と協力を呼びかけていく。図書館オリエンテーションや広報誌、委員会活動を通して、幅広く生徒に親しまれる図書館を目指す。 また、図書館だより生徒一人一人に配布し、家庭においても読書に親しむ機会が増えるようにする。
保護者との連携	②情報機器を利用して、本校の情報を保護者に発信し、連携を深める。	ブログ兼ホームページのレイアウト刷新により、取組指標、満足度指標は前年度を上回っている。成果指標はほぼ同じである。 今後もブログ兼ホームページは迅速に更新することにより一層の内容の充実を図る。	シンプルで見やすいブログ兼ホームページで、保護者等への情報発信をおこない、より一層保護者を含めた地域住民と連携を深め、PTA活動への参加・協力を呼びかけていく。